



# ID Holdings

株式会社 IDホールディングス  
2023年3月期第2四半期 決算説明資料

代表取締役社長 船越 真樹

東証プライム市場  
証券コード

# 4709



当社ウェブサイトへの  
アクセスができます。



**1****2023年3月期第2四半期決算説明****2****新中期経営計画  
Next 50 Episode II  
「Ride on Time」**

**売上高：148億61百万円** (前期比 +11.4%)



- ⊕ 大手ITベンダーへの営業強化による取引拡大や、既存顧客における受注拡大などにより、すべてのサービス領域が順調に推移

**営業利益：11億55百万円** (前期比 +63.9%)



- ⊕ 売上の増加にともなう利益の増加
- ⊕ 利益率の高いDX関連ビジネスの拡大

# 連結損益状況(前年同期比)

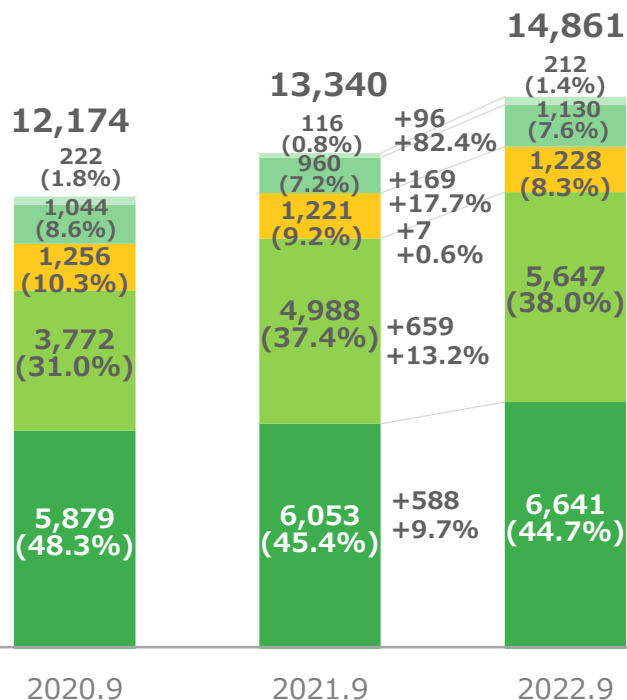
(単位：百万円)	2021.9		2022.9		増減比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	13,340	-	<b>14,861</b>	-	1,520	+11.4%
売上原価	10,183	76.3%	<b>11,536</b>	<b>77.6%</b>	1,353	+13.3%
売上総利益	3,157	23.7%	<b>3,324</b>	<b>22.4%</b>	167	+5.3%
販管費	2,452	18.4%	<b>2,169</b>	<b>14.6%</b>	<b>-283</b>	<b>-11.6%</b>
EBITDA <sup>※1</sup>	1,009	7.6%	<b>1,454</b>	<b>9.8%</b>	444	+44.1%
営業利益	704	5.3%	<b>1,155</b>	<b>7.8%</b>	450	+63.9%
経常利益	741	5.6%	<b>1,209</b>	<b>8.1%</b>	467	+63.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	375	2.8%	<b>680</b>	<b>4.6%</b>	305	+81.5%
1株当たり四半期純利益(EPS)(円)	21.84	-	<b>41.04</b>	-	19.20	-
のれん償却前EPS(円) <sup>※2</sup>	34.78	-	<b>54.43</b>	-	19.65	-

※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

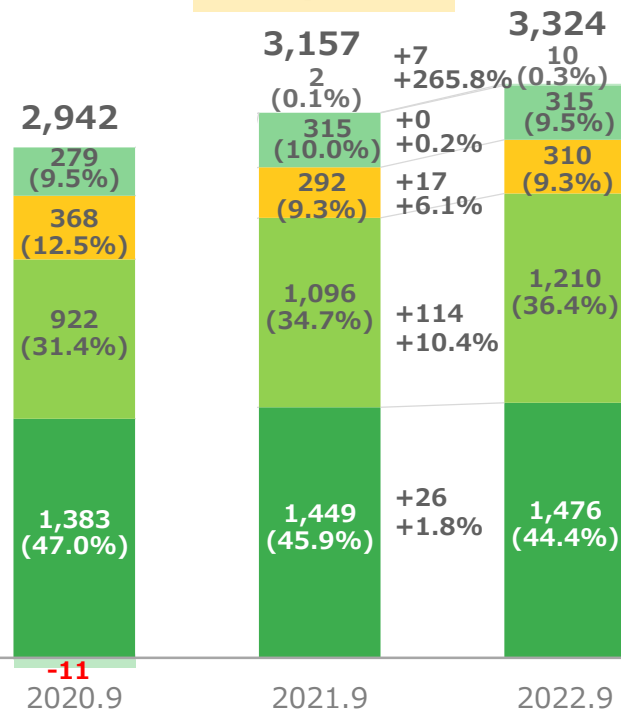
※2 のれん償却前EPS = (親会社株主に帰属する当期 (または四半期) 純利益 + のれん償却額) / 期中平均株式数

単位：百万円

## 売上高



## 売上総利益



■ システム運営管理 ■ ソフトウェア開発 ■ ITインフラ ■ サイバーセキュリティ・コンサルティング・教育 ■ その他

### サービス別売上高のポイント

- システム運営管理
  - ⊕ 大手ITベンダーへの営業強化による取引拡大や、金融関連顧客における受注拡大
- ソフトウェア開発
  - ⊕ 大手ITベンダーへの営業強化による取引拡大や、公共関連顧客における受注拡大
  - ⊕ 運輸関連顧客における大型案件の再開
- ITインフラ
  - ⊕ 金融関連をはじめとした複数の既存顧客における取引拡大
  - ⊖ 情報通信、公共関連顧客における案件の収束
- サイバーセキュリティ・コンサルティング・教育
  - ⊕ サイバーセキュリティにおける製品販売の増加や受注拡大
  - ⊕ コンサルティングにおける売上の増加

※ 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しています。

## DX関連ビジネスとは

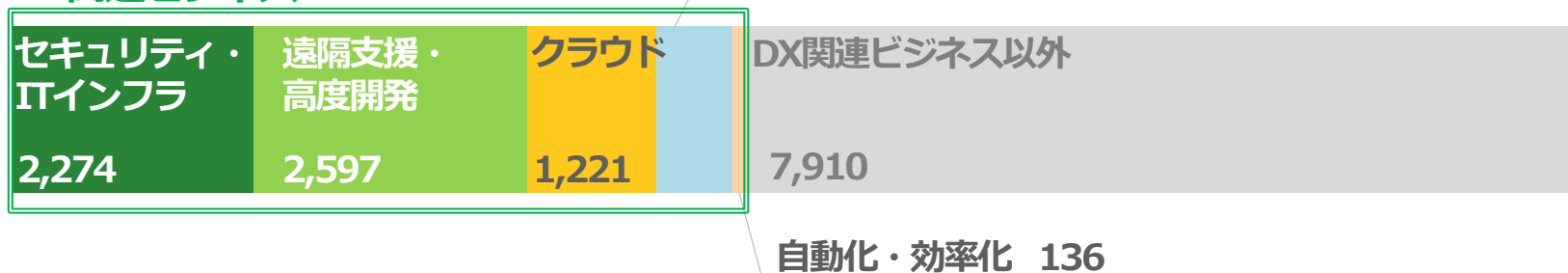
既存のITサービスに、クラウドやAI、IoTなどの先端技術を組み合わせ、お客さまのDXを推進するビジネス

DX関連売上高：**6,951** 百万円      連結売上高比：約 **46.8** %

DX関連売上総利益：**1,744**百万円（同率：**25.1**%）

（参考）2022年3月期間連2QDX売上高：5,629百万円    連結売上高比：約42.2%

### DX関連ビジネス（百万円）



セキュリティ・ITインフラ



遠隔支援・高度開発



クラウド

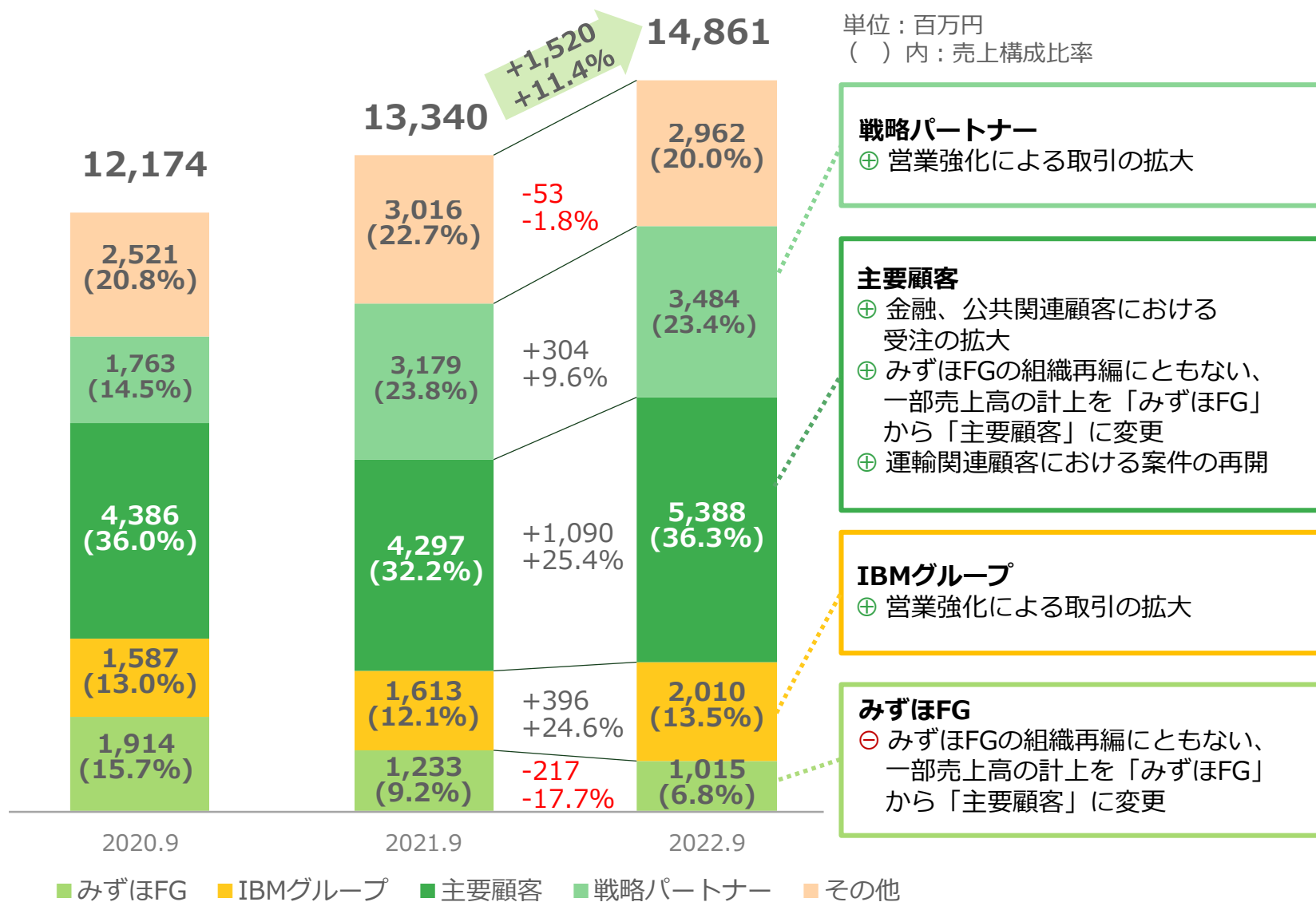


コンサル・研修



自動化・効率化

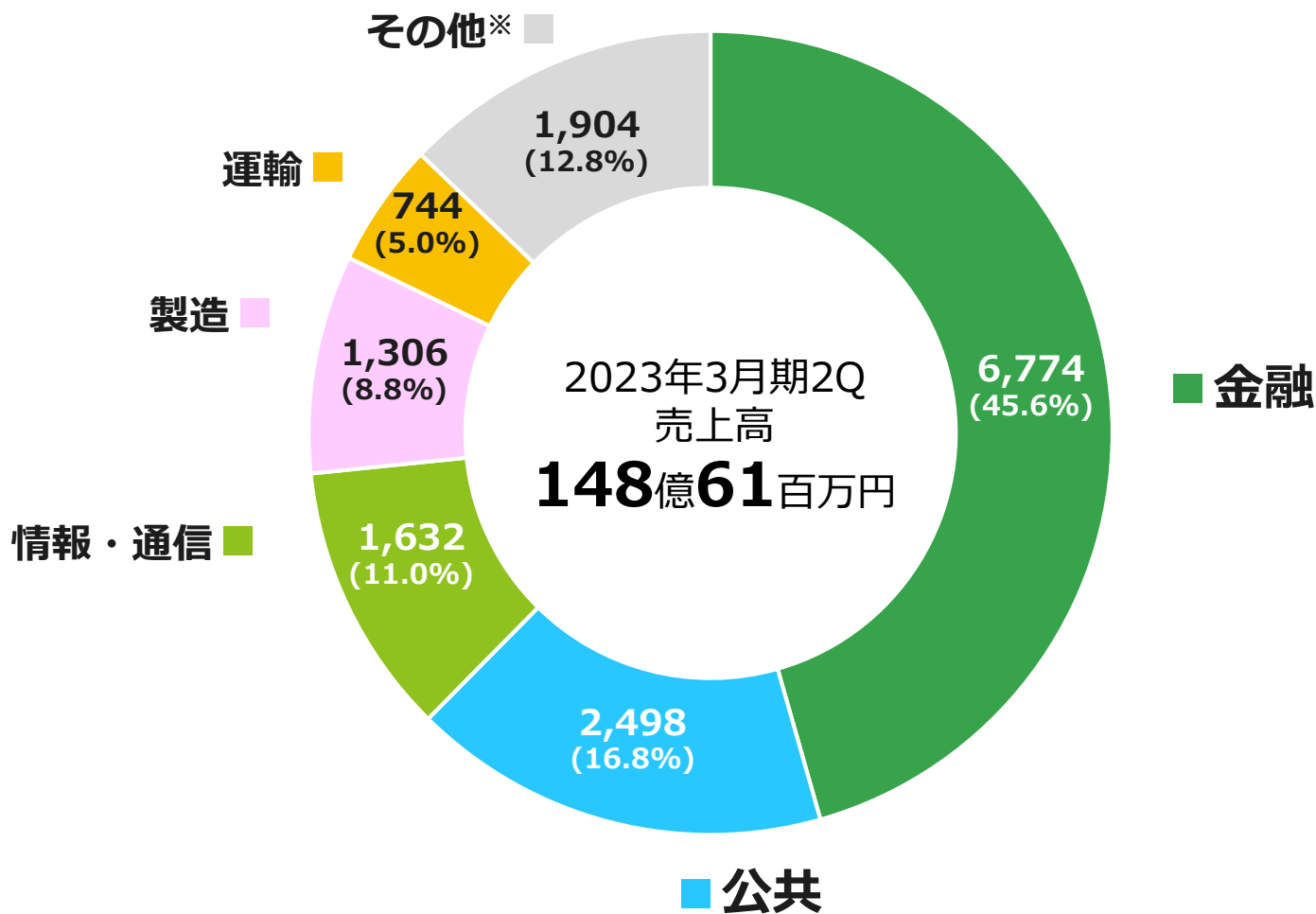




※1 今期より「主要顧客」の内訳を一部変更しています。また2020.9、ならびに2021.9の売上高につきましても、変更後の区分に基づき算出しています。

※2 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しています。

単位：百万円  
 ( ) 内：売上構成比率



Change or Die!

※「メディア」、「ヘルスケア」、「建設・不動産」、「卸売・小売業・飲食店」等



	2021.9	2022.9		主な増減要因
(単位：百万円)	実績	実績	増減額	
売上総利益	3,157	3,324	+167	<b>・売上総利益の増減要因</b> -売上高の増加 +1,520 -売上原価の増加 +1,353 -労務費 +271 -外注費 +929 -製造経費 +93 -仕入 +60
販管費	2,452	2,169	-283	<b>・販管費の増減要因</b> -人件費の減少 -292 -グループ組織変更にともなう人件費の減少 -販管部門から事業部門への人員の再配置 -前期に子会社で計上した福利厚生費（周年記念）の反動減 など -その他販管費の増加 +8
営業利益	704	1,155	+450	

	2021.9	2022.9		主な増減要因
	(単位：百万円)	実績	実績	
経常利益	741	1,209	+467	<b>・経常利益の増減要因</b> -営業利益の増加 +450 -営業外収益の減少 -3 -営業外費用の減少 -21
特別利益	5	0	-5	<b>・特別利益の減少要因</b> -前期に計上した新株予約権戻入益の反動減 -4
特別損失	15	3	-12	<b>・特別損失の増減要因</b> -前期に計上した子会社の事務所移転費用の反動減 -15 -固定資産除却損の計上 +3
法人税など合計	355	524	+169	
<b>親会社株主に帰属する 四半期純利益</b>	375	680	+305	

(百万円)

2022.3

資産 16,238	負債 6,792
	純資産 9,446

2022.9

資産 16,168	負債 6,176
	純資産 9,992

**主な要因**

- ・ 契約資産の増加 +448
- ・ 投資有価証券の増加 +147
- ・ 現金及び預金の減少 -837

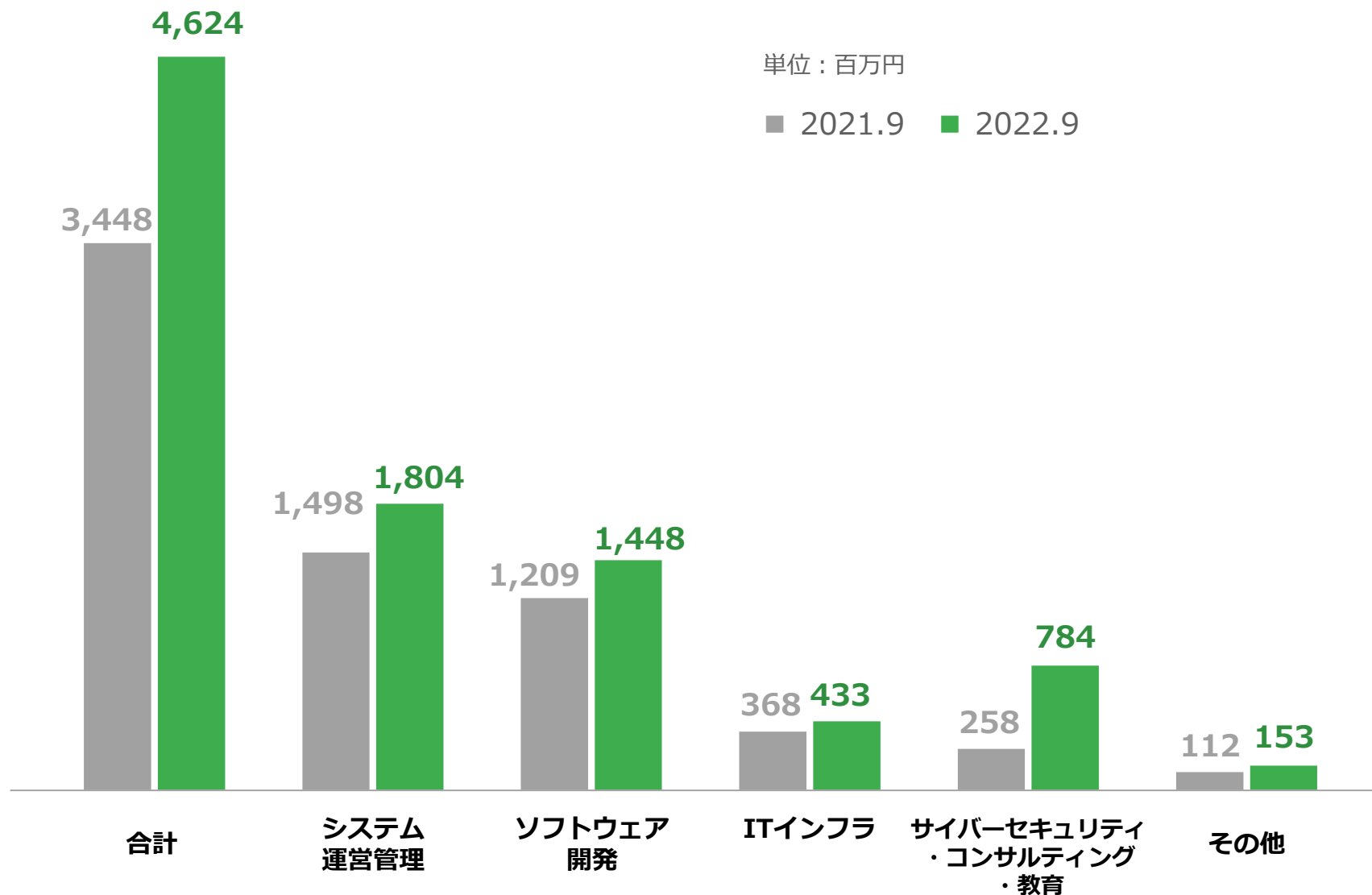
**主な要因**

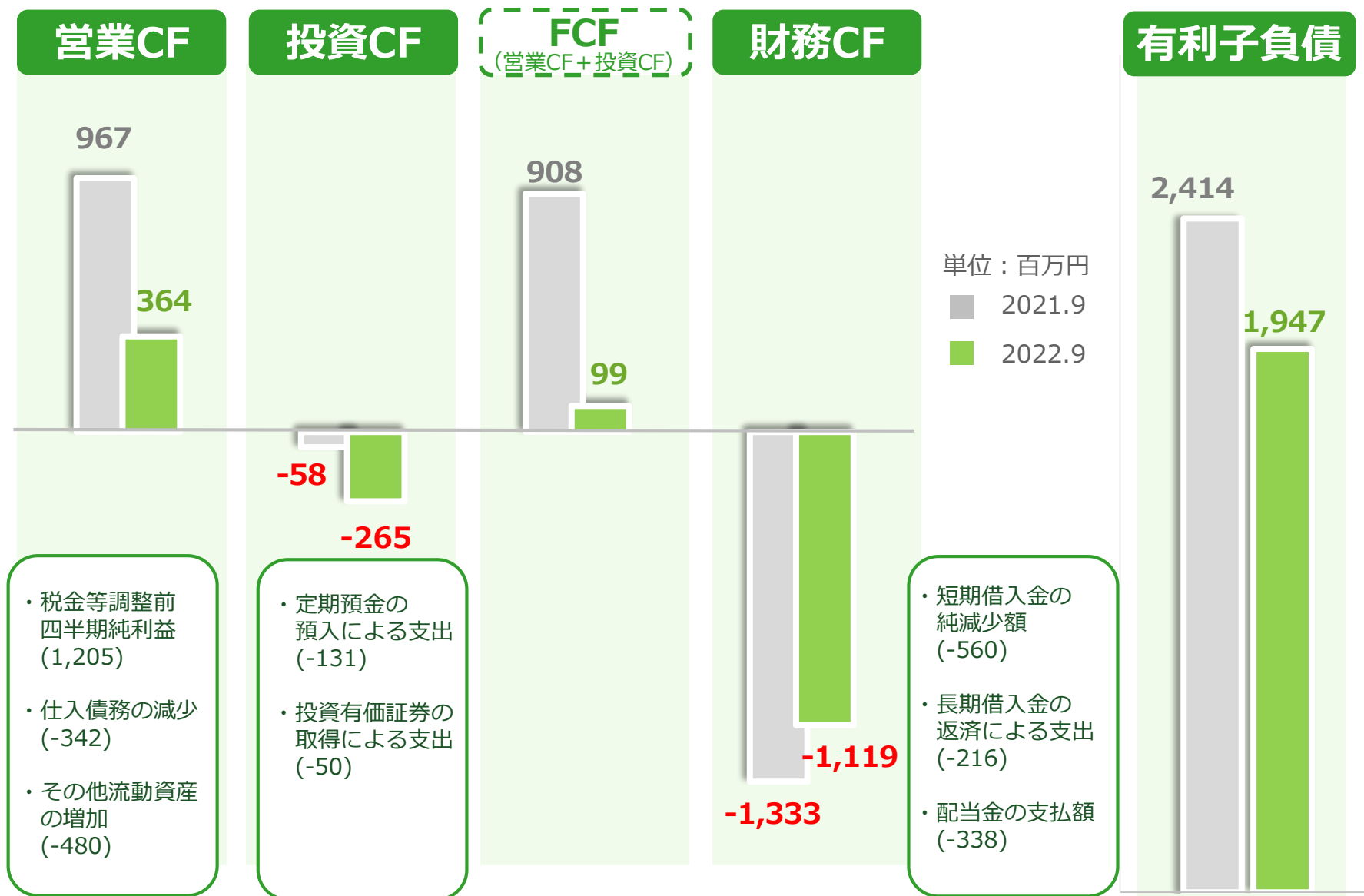
- ・ 契約負債の増加 +118
- ・ 賞与引当金の増加 +140
- ・ 有利子負債の減少 -778

自己資本比率 : **61.5%**

流動比率 : **205%**

のれん : **1,526**百万円





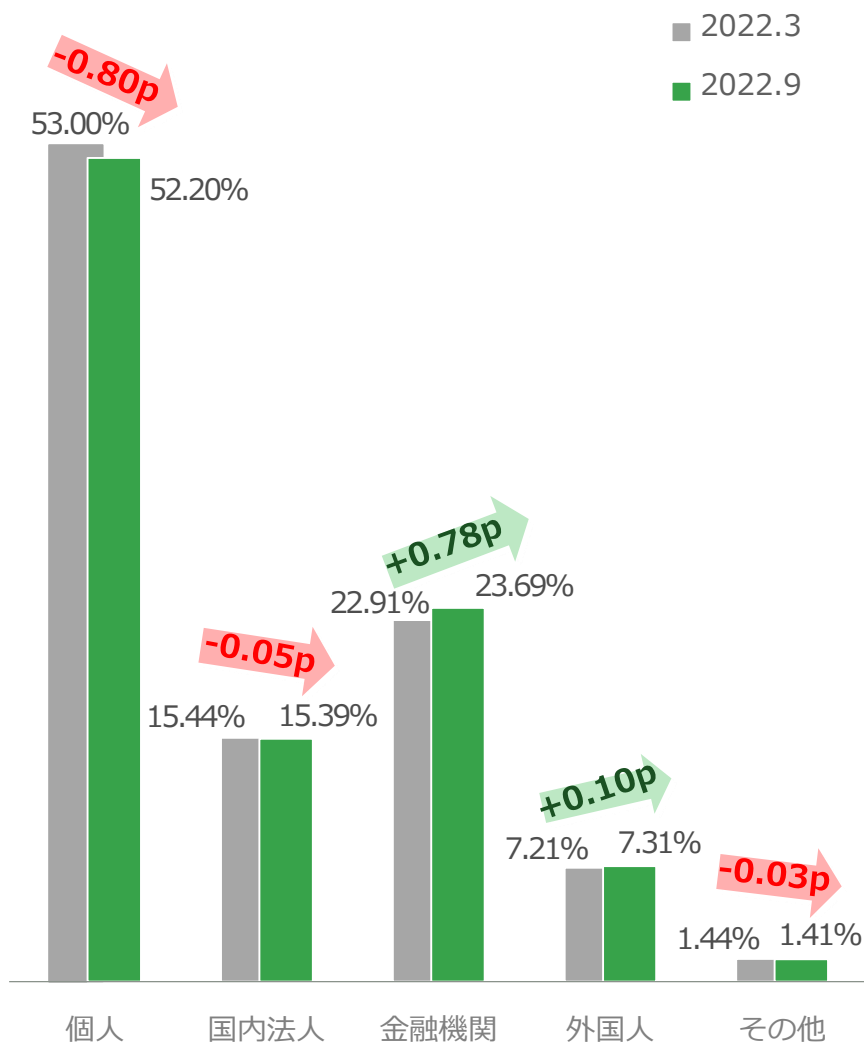
単位：百万円

■ 2021.9

■ 2022.9

2023年3月期  
第2四半期のおもな内訳

## 株主構成の推移



## 主要株主

- ✓ 株主総数6,123名 (2022年3月末比140名増)
- ✓ 議決権を有する株主総数5,120名 (2022年3月末比53名増)
- ✓ 持株比率は、自己株式 (1,017千株) を発行済株式総数から控除して算出しています。

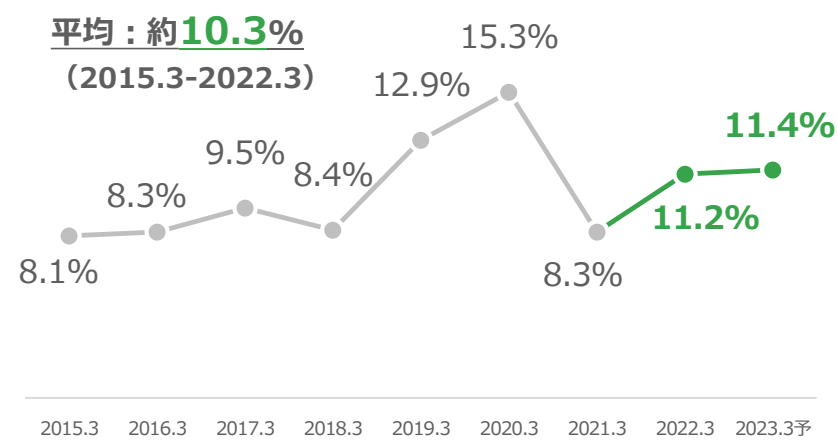
	主要株主	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	10.74%
2	株式会社エイ・ケイ	9.18%
3	ID従業員持株会	6.81%
4	PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	4.40%
5	株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	4.33%
6	みずほ信託銀行株式会社	3.72%
7	株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)	2.68%
8	TDCソフト株式会社	2.49%
9	船越 朱美	1.74%
10	丸林 香織	1.58%

## 資本効率向上の施策

**ROE =**  $\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$

- M&A戦略やDXビジネスの推進による売上高拡大
- サービス型ビジネスへのシフトによる利益率の向上
- さらに成長に向けた人財投資
- 配当による株主還元の充実

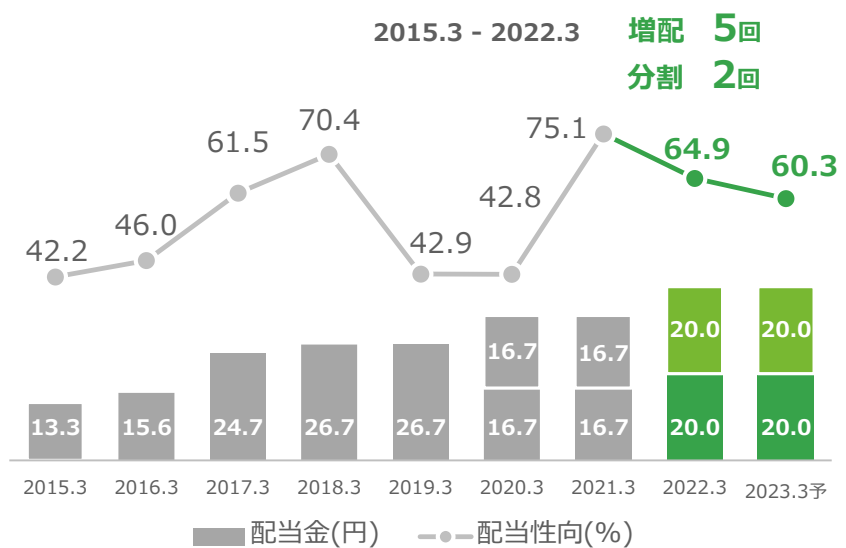
## ROEの推移



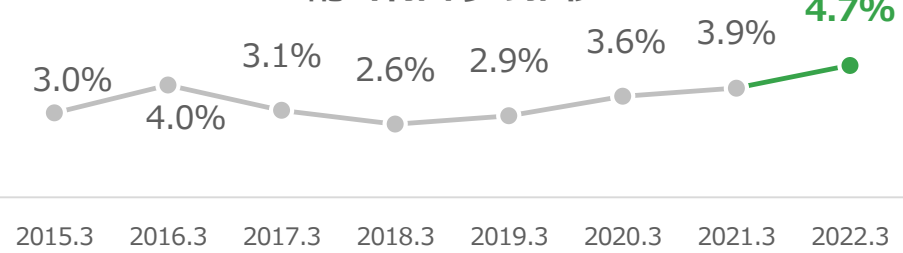
## 株主還元の充実

**2023年3月期**  
中間配当20円、期末配当20円を予定

## 1株当たり配当金および配当性向の推移



## 配当利回りの推移



Change or Die!

1

2023年3月期第2四半期決算説明

2

新中期経営計画  
Next 50 Episode II  
「Ride on Time」



5つのステークホルダーへ **Waku-Waku** する未来をお届けする  
ITエンジニアリングパートナーを目指して。ともに **Ride on Time!**



## Next 50 Episode II 「Ride on Time」

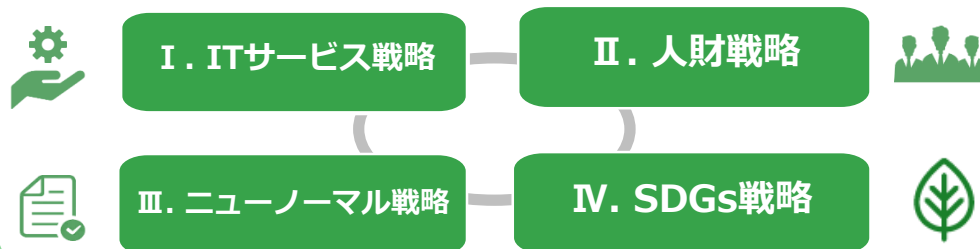
企業価値の向上と、**従業員やBP**への還元で、さらなる成長サイクルの実現へ！

	2022.3	2025.3	2027.3※
売上高	278億円	320億円	400億円
営業利益	18.6億円 (6.7%)	25.5億円 (8.0%)	32億円 (8.0%)

※M&Aの実施を考慮



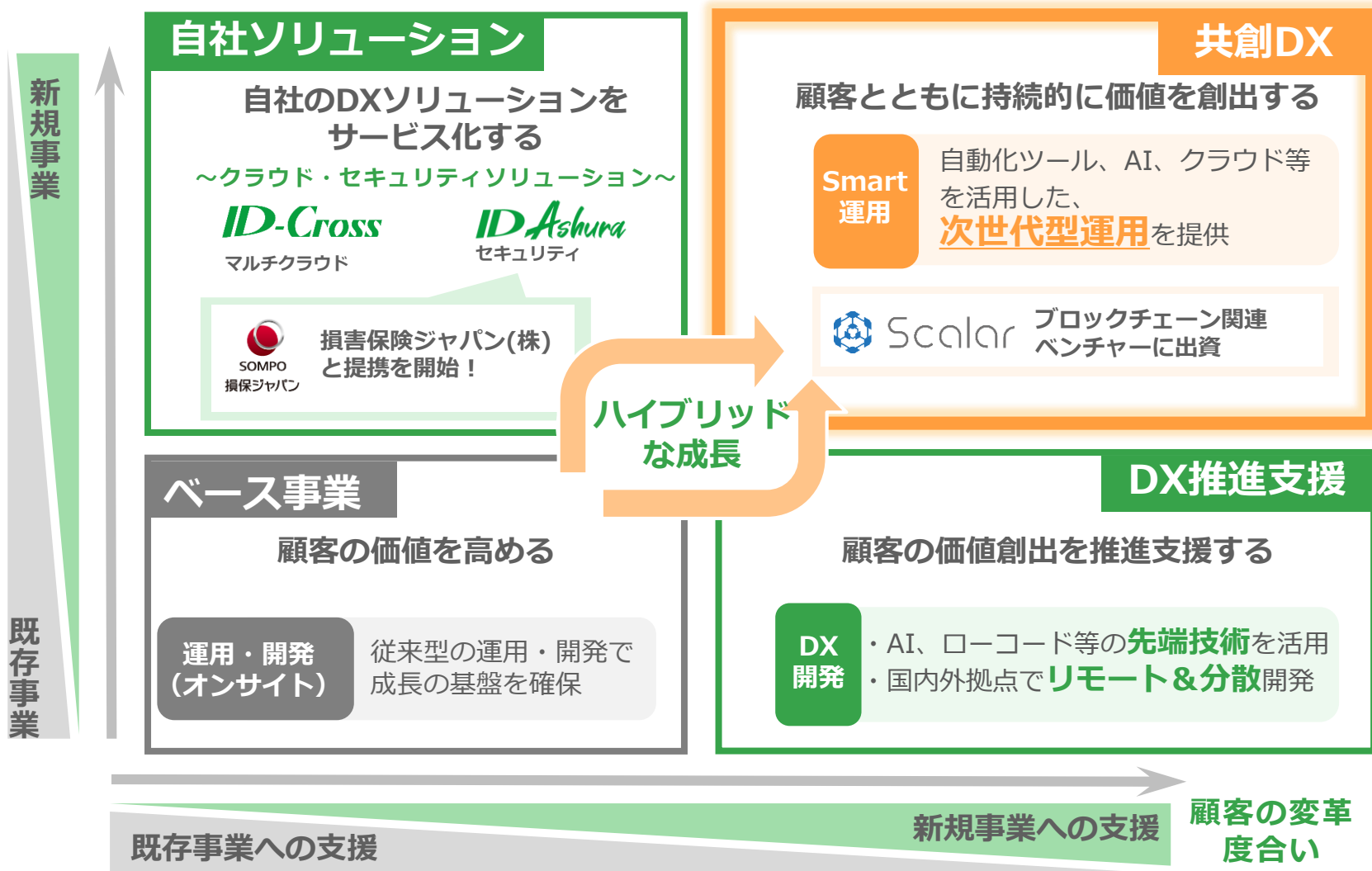
- 1 当社DXポートフォリオに沿ったビジネスモデルの展開
- 2 高付加価値創出に向けたパートナーシップの強化
- 3 管理部門の高度化と事業部門への人財シフト



## ■ ベース事業で収益を確保し、顧客のDX推進支援&自社ソリューションを拡大

Change or Die!

当社のイノベーション度合い



**共通タスク** ◆重点顧客タスク ◆戦略パートナータスク ◆BP価値向上 ◆品質管理 ◆グローバルタスク

※出典『情報サービス産業白書2021』p6, 「DXビジネスポートフォリオ」を一部修正

## 「システム運営管理」とは

お客さまのシステムを24時間365日運用・監視し、社会の重要インフラを支える。  
市場が限定的であり、他社にとって参入障壁が高い分野。

## 1 システム運営管理が4割超 ▶ストックビジネスとして確実に収益を確保。

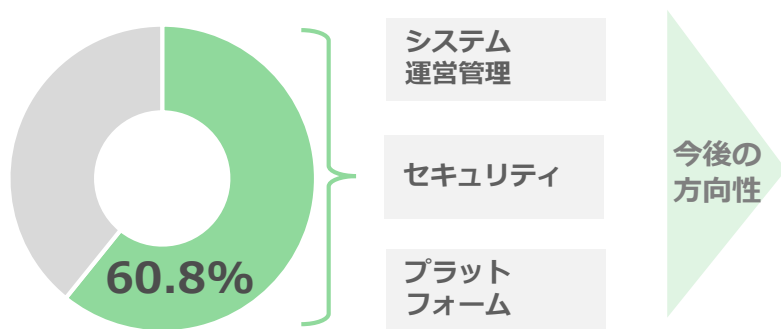
【2022年3月期 連結売上高】 27,805百万円



### システム運営管理

## 2 従来型運用からSmart運用の移行を進め、新たなシステム運用の姿を創出する。

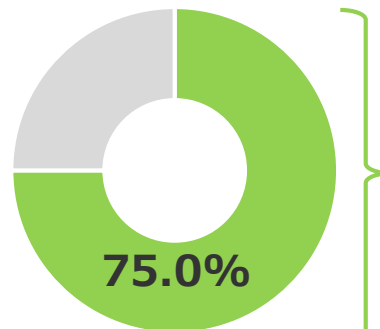
【2022年3月期 連結売上高】



システム運営管理  
セキュリティ  
プラットフォーム  
など

今後の方向性

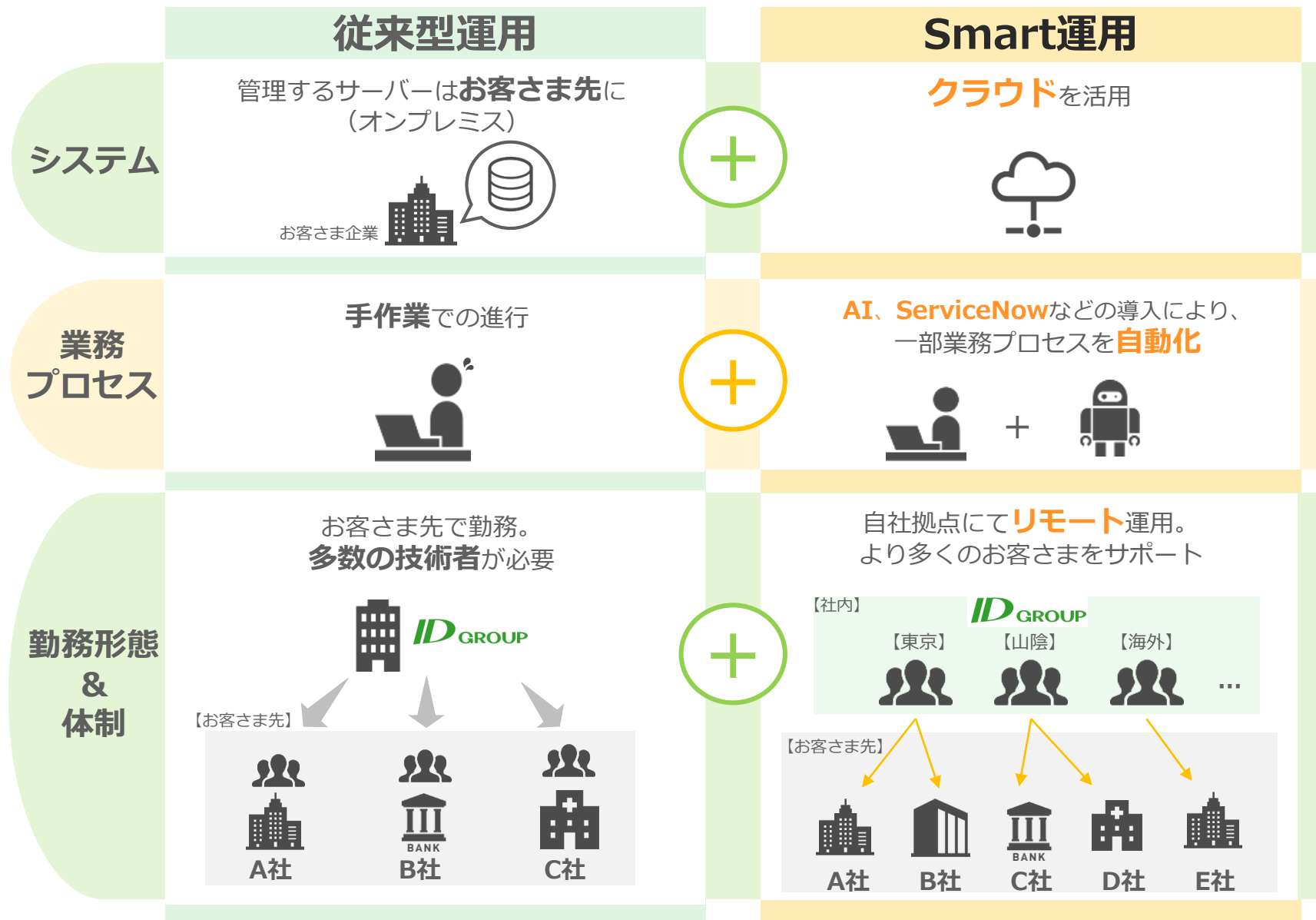
高付加価値化を目指し、売上高の75%を目指す



### Smart運用

- ✗ セキュリティ
- ✗ プラットフォーム

従来型運用に加え、先端技術を活用したSaaS型サービス「Smart運用」に注力



バーチャルオペレーションセンターの運用開始に向け、  
仮想空間における運用業務の検証を実施

## ～VROP (ID Virtual Reality OPeration center)～



時間と場所にとらわれない運用サービスの実現へ  
(リアルとバーチャルの融合による新たな価値の創造)

IDグループは、事業活動を通じて、さまざまな社会課題の解決に向けた取り組みを行っています。代表的な事例をご紹介します。

## 重要課題

DX化&サイバー攻撃  
の脅威



ダイバーシティ



気候変動 & 脱炭素化



## 事業活動

DXソリューション  
サービスの提供

*ID-Cross* *ID-Ashura*



女性&グローバル人材の  
採用・活躍



温室効果ガスの削減  
再生可能エネルギーの利用



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Change or Die!

## 社会貢献活動・文化芸術活動支援



【障がい者雇用による植物栽培】



【芸術家活動支援】

## 外部からの評価

NIKKEI  
**Smart Work**  
★★★★ 2023

「人材活用力」がA++

NIKKEI  
**SDGs**  
経営調査 2022 ★★★★★

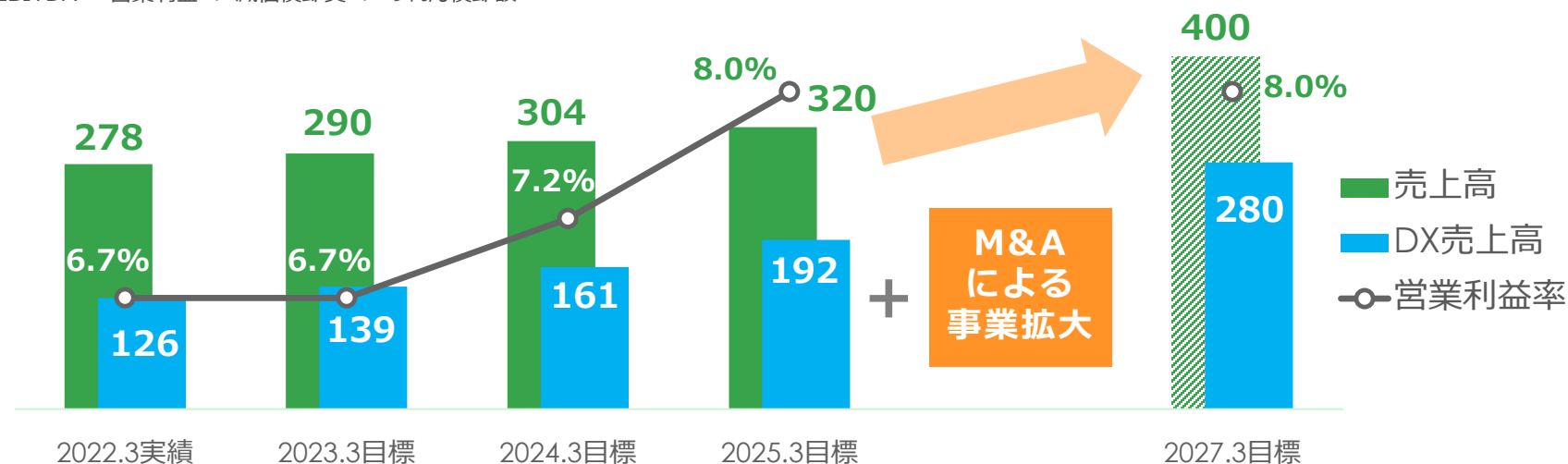
「社会価値」がS

# 新中期経営計画の重点数値目標

(5年後の数値目標)  
2027年3月期

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2027年3月期
<b>売上高</b>	278億円	<b>290億円</b>	<b>304億円</b>	<b>320億円</b>	<b>400億円</b> <small>※M&amp;Aの実施を考慮</small>
<b>営業利益 (同率)</b>	18.6億円 (6.7%)	<b>19.5億円 (6.7%)</b>	<b>22億円 (7.2%)</b>	<b>25.5億円 (8.0%)</b>	<b>32億円 (8.0%)</b>
<b>DX売上高 (同率)</b>	126億円 (45.6%)	<b>139億円 (48%)</b>	<b>161億円 (53%)</b>	<b>192億円 (60%)</b>	<b>280億円 (70%)</b>
<b>EBITDA (同率)</b>	24.9億円 (9.0%)	<b>25.8億円 (8.9%)</b>	<b>28億円 (9.2%)</b>	<b>31億円 (9.7%)</b>	<b>40億円 (10.0%)</b>

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額





	主要KPI	2022.3 実績	2023.3 目標	2024.3 目標	2025.3 目標
ITサービス戦略	DX売上高	126億円	139億円	161億円	192億円
	DX売上高比率	45.6%	48%	53%	60%
人財戦略	DX中上級資格取得件数（年間）	264件	300件	300件	300件
	DX中上級技術者数	584人	700人	840人	1,000人
	女性従業員比率	24.1%	26%	28%	30%
	女性管理職比率	16.9%	22%	25%	30%
	外国籍社員比率	7.7%	10%	13%	15%
ニューノーマル戦略	販管費率の改善	17.3%	15.3%	14.6%	13.9%
SDGs戦略	CO2の削減（電力使用由来による） * 2021年3月期比 電力使用量	3.7%減	15%減	18%減	20%減
	紙の使用量の削減 * 2021年3月期比	17%減	17%減	20%減	23%減
	環境ボランティア活動の参加 （年間延べ人数）	173人	200人	200人	200人

(単位：百万円)	2022.3		2023.3		増減比	
	実績	構成比	計画	構成比	増減額	増減率
売上高	27,805	-	29,000	-	+1,194	+4.3%
EBITDA	2,491	9.0%	2,580	8.9%	+88	+3.5%
営業利益	1,869	6.7%	1,950	6.7%	+81	+4.3%
経常利益	1,922	6.9%	2,000	6.9%	+77	+4.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,046	3.8%	1,100	3.8%	+54	+5.1%
1株当たり当期純利益 (EPS)(円)	61.61	-	66.30	-	+4.69	-
のれん償却前EPS(円)	87.78	-	93.10	-	+5.32	-
営業CF	1,842	-	1,816	-	-26	-

Change or Die!

## 免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社 IDホールディングスの業績予想、将来戦略、事業計画などの将来情報や経済動向、他社との競争状況などの潜在的リスクや不確実な要素が含まれています。

これらの歴史的事実以外の情報に含まれる予測及び計画は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断しています。

その為、実際の業績、事業展開または財務状況は、今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な原因により、記述されている将来予測及び計画とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。